令和 5 年 5 月 26 日
ニュース証券株式会社
長友　哲郎
03-5466-1641

日経平均の動き

私はこれまで相場の大きな流れを的確にとらえようと、さまざまに日経平均の分析を行ってきました。そして「データによる分析で勝率を上げるため」様々なデータを作成してきました。以下はそのデータを使い、これからの日経平均の動きを私なりに分析しコメントしています。皆様のご参考になれば光栄です。

➢ 来週の日経平均予想

➢ ピーク to ピークから（参照：5 月～6 月ピーク to ピーク 2023 年版）

6 月 SQ2 週間前の値は 30,916.31 円でした。ピーク to ピークでのデータでは「5 月 SQ2 週間後の終値は、5 月 SQ1 週間後の終値（30,808.35 円）よりも高くなる」でしたので、今回はデータ通りでした。

直近10週間の週単位でのピークtoピークの検証結果						
3月17日	27,333.79（終値）	高くなる	3月24日	27,385.25（終値）	○	0.963
3月24日	27,385.25（終値）	高くなる	3月31日	28,041.48（終値）	○	0.963
3月31日	28,041.48（終値）	高くなる	4月7日	27,518.31（終値）	×	0.963
4月7日	27,518.31（終値）	安くなる	4月14日	28,519.43（SQ値）	×	1.036
4月14日	28,519.43（SQ値）	安くなる	4月21日	28,564.37（終値）	×	1.002
4月21日	28,564.37（終値）	高くなる	4月28日	28,856.44（終値）	○	1.010
4月28日	28,856.44（終値）	高くなる	5月2日	29,157.95（終値）	○	1.010
5月2日	29,157.95（終値）	安くなる	5月12日	29,235.08（SQ値）	×	1.003
5月12日	29,235.08（SQ値）	安くなる	5月19日	30,808.35（終値）	×	1.054
5月19日	30,808.35（終値）	高くなる	5月26日	30,916.31（終値）	○	1.004
5月26日	30,916.31（終値）	高くなる	6月2日	？		

（独自作成）

次に来週の予想です。

6 月 SQ2 週間前の値と 1 週間前を比較すると、上昇したパターンは 28 回中 15 回あります（①）。

次に、6 月 SQ2 週間前までの 1 週間が上昇したパターンは 15 回あります。そのうち 10 回は 6 月 SQ2 週間前より 1 週間前の方が上昇しています（②）。

①、②より「6 月 SQ1 週間前の終値は、6 月 SQ2 週間前の終値（30,916.31 円）よりも高くなる」というのがピーク to ピークでの検証結果です。

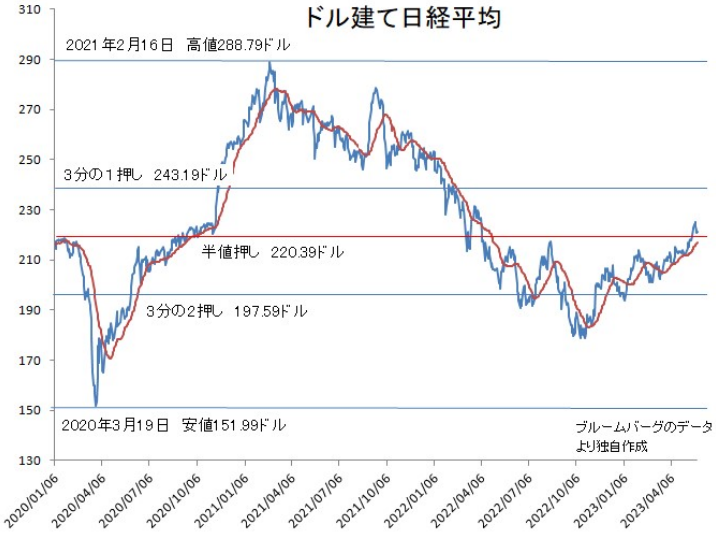
➢ 外国人の売買動向（資料：外国人の売買代金、信用残の推移）

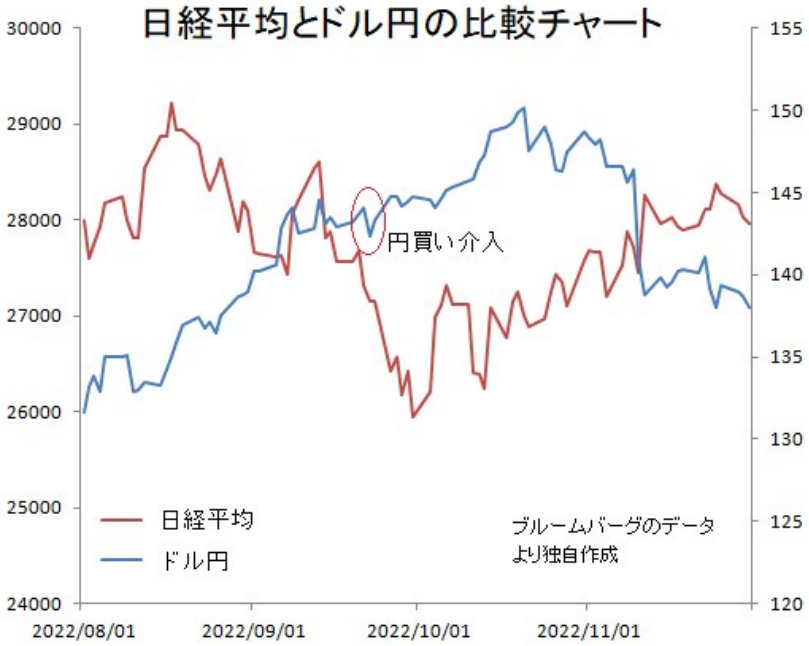
5 月第 3 週の外国人は 7,476 億円の買い越しでした。これで 8 週連続、この間の累計も 3 兆 6300 億円を超えてきました。先週も書きましたが、連続買い越しと累計金額で言うと 2013 年 12 月第 5 週までの 10 週、4 兆 6000 億円以来、実に 10 年ぶりです。なお当時はその 10 週間で日経平均が 15.6%上昇しました。一方今回 8 週間で 12.5%の上昇となり、仮に 15.6%上昇したら 31,657 円です。

ドル建て日経平均は円建て日経平均が上昇したにも拘らず、為替が円安にぶれたので相殺され、結果的には週間でマイナスとなっています。ただ 25 日移動平均線も上回っているので上昇トレンドには変わりません。

次にドル円です。今週は米国景気の堅調さが確認される経済指標の発表があり、結果 2 か月ぶりに米長期金利が 3.8%台に入ってきたこともあり、1 ドル 140 円台と半年ぶりの水準まで戻ってきました。米債務上限問題の協議が難航していますが、いずれは妥結するとの思惑と、6 月の FOMC で追加利上げの可能性も高くなったので、更なる円安の可能性も出てきました。

ただ円安＝株高となるかは分かりません。例えば昨年 8 月から 10 月にかけ円安局面がありましたが、同時期の日経平均はむしろ下落しています。更なる円安は輸出企業のプラス要因より国内のインフレ懸念の方が強かったと記憶します。実際昨年 9 月に、日銀は 24 年ぶりに円買い介入を行いました。

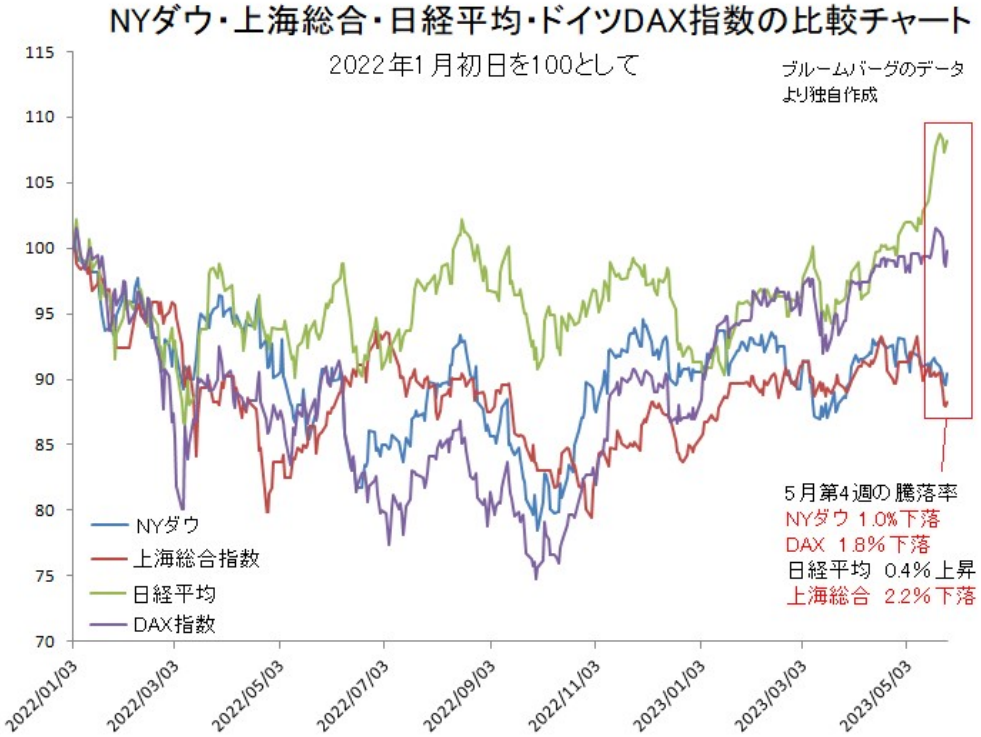




次に世界のマーケットです。日経平均だけ見ていると上昇基調が続いていると思いますが、世界のマーケットは少し変化が出てきました。

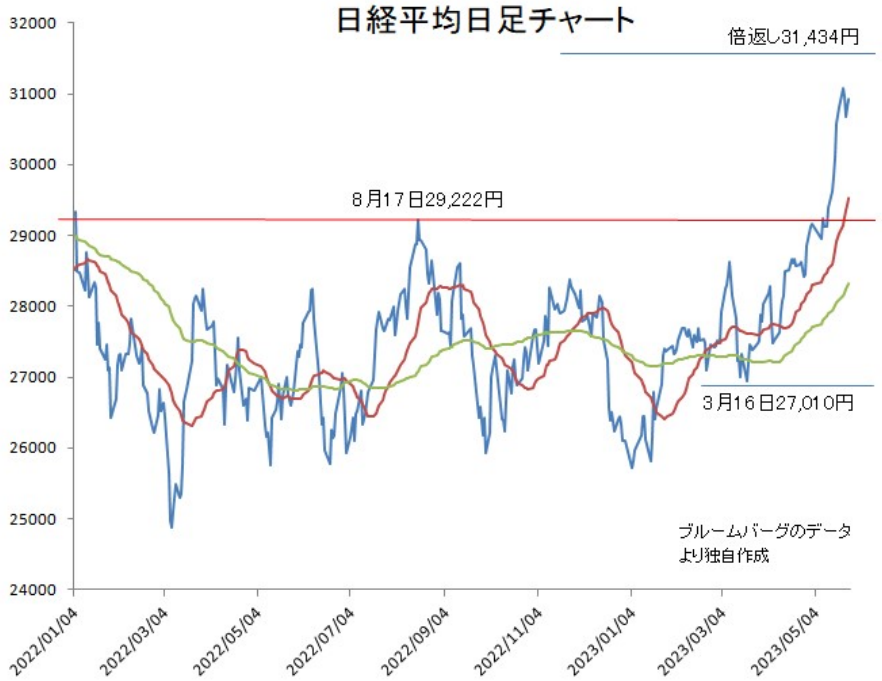
まず（下落基調が）杞憂に終わるか、と思った中国上海指数は今週再度下落。週間で 2.2%の下落と、一時 4 か月ぶりの安値を付けました。因みに香港のハンセン指数は 26 日の終値が

今年の安値を更新しています。また NY ダウも週末は 6 日ぶりに上昇しましたが、前日は一時 1 か月ぶりの安値を付けました。しかしナスダック指数は高値更新と、NY 市場でも市場間で強弱が出ています。



➢ チャート分析

今週の日経平均は 107 円高と 7 週連続高となりました。これは 2018 年 5 月第 3 週までの 8 週連続高以来の記録です。しかも先週の時点で 21 年の戻り高値を更新しましたので、今後の高値の目安を検証します。



今回の上昇のスタート地点を 27,010 円(3 月 16 日)として、5 月 12 日に昨年来高値の 29,222

円（8 月 17 日）を突破しました。この値幅の倍返しの水準は 31,434 円です。なおこの水準は上記した外国人動向の、前回の連続買い越しの期間の上昇率を今回に当てはめた 31,657 円にも近い値です。そうなると概ね 31,500 円近辺が次の高値の目安と考えられます。なお週末のシカゴ CME 先物が 31,500 円で引けていますので、ほぼこの水準ということになります。

いずれにしても日経平均は上昇局面にあり、この流れを止めるとしたら外部要因しかありません（例えば米国債務問題や中国市場の更なる下落など）。いつその場面が来るか来週もしっかり見ていきます。

・この資料の作成にあたっては細心の注意をしておりますが、作業上データに誤りが発生する可能性があり、正確性を保証するものではありません。またここでの内容は現時点での判断を示しているにすぎません。また予告なく見方を変更することもあります。
・この資料は情報提供のみを目的に作成したもので、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって投資の最終決定はご自身でなさるようお願いします。

Ｎｅｗｓ 20230529-1

ニュース証券株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第 138 号
〒150-0011　東京都渋谷区東三丁目 11 番 10 号　恵比寿ビル
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問協会